第6学年社会科学習指導案

日 時 平成17年10月12日(水)授業2学 級 6年2組 男 17名 女 20名 計 37名 場 所 6年2組教室 授業者 教諭 武田 基

1 単元名「3 新しい日本の国づくりを見つめよう~新しい時代の幕あけ~」(教育出版上)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第6学年2内容力「黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。」に基づいて構成している。

本単元で扱う時代は、江戸幕府が倒れたことにより、武士による政治が終わり、明治天皇を中心にした政治の仕組みがつくられた時代である。廃藩置県や四民平等などの諸改革を始めとして、様々な政治や社会の仕組みが整えられた。また、欧米から様々な文化が取り入れられたことにより、人々の生活が大きく変化した時代でもある。それらの諸改革や新しい国づくりに尽くした人物の業績や考え方、新しい文化などを調べることを通して、我が国は、天皇を中心とした諸改革を行い、欧米から文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにすることがねらいである。

(2) 児童観

「児童は、これまで、日本の国づくりにかかわって、大和朝廷、聖徳太子、聖武天皇、鎌倉幕府、江戸幕府などについて学習に取り組み、その政治の仕組みや文化、制度、人物の業績や考えについて学習を進めてきた。資料活用技能では、表象的な資料の読み取りから、既習事項を生かし、自分なりの解釈を付け加えた読み取りができるようになることを目標にして取り組んできた。しかし、解釈を付け加えた読み取りができる児童はまだ少数である。

事前テストの結果によると、半数弱の児童が、「文明開化」「明治維新」という言葉についてどこかで聞いたことがあると答えた。これは、特色ある様々な改革が行われたこの時代が、現代につながりをもち、児童が生活の中で耳にしたり、目にしたりしたことがあったことが理由として考えられる。しかし、その意味や内容、この時代の細かな政治の仕組みについては当然ながらほとんどの児童が知識をもっていない。1学期末に実施した、学習にかかわるアンケートによると、82%の児童が社会科の学習に対して興味・関心をもっているという結果が出た。一方、苦手意識を抱えている児童の多くは、知識・理解面での難しさを感じている。このような実態から、児童の興味・関心を大切にしながら、正しい知識を身につける指導、資料活用技能を高め、歴史的な見方や考え方を深めるような指導が必要である。

(3) 指導観

指導にあたって特に重視する点は次の4点である。

自らの問いを重視した単元構成・授業展開とする。

児童は、これまでの学習で、各時代で政治の仕組みが変わることや人物の国づくりに対する願いがかかわっていることが分かってきている。本単元の学習においても、既習の学習経験をもとにし、社会の仕組みが変化することについて、疑問をもたせ、児童の問いから学習課題づくりを行う。また、単位時間の学習においても、問いをもたせる発問を意図的に取り入れ深めるようにする。

資料活用技能や、基礎的・基本的な学習技能の定着を重視する。

児童にとっては、学習内容を理解することだけではなく、これからの学習に生かすことができる技能を身につけることは大切なことである。特に、社会科においては資料活用技能を高めることが大切だと考える。そこで、読み取りの技能を高めることや身近な資料、例えば国語辞典や百科事典を用いて調べる習慣を身に付けさせることは、自ら学ぶ態度につながるものである。

人物の思いや願いについて取り上げ、歴史的なものの見方や考え方を深める。

本単元の学習にかかわっては、様々な人物の業績に目を向けさせることが、歴史的なものの見方や考え方を深めるために有効であると考える。例えば、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允が新しい日本の国づくりにどのような願いをもっていたことに迫ることは、明治政府がめざした国づくりについて見方を深めることにつながるものと考える。

視聴覚資料を効果的に活用する。

視聴覚資料は、児童の興味・関心を高めるだけではなく、その時代の生の映像に触れることができるという点で有効だと考える。そこで「NHK にんげん日本史」のクリップ教材を中心に、視聴覚資料を効果的に活用することで、子どもたちに豊かな学習の定着が図られるようにしたい。

3 単元の目標と評価規準

	目標	評価規準
社会的事象 への関心・意 欲・態度	明治政府ができ、欧米の制度や文化を取り入れて近代的な国家づくりが進められたことに 興味をもち、その経過について意欲的に調べ ようとしている。	・黒船の来航を契機に長く続いた武士の支配が終わり、近代的な新しい国家をつくろうとする動きが出てきたことに興味をもち、その経過について意欲的に調べようとしている。
社会的な思 考・判断	日本が開国した様子や明治政府が近代国家と しての仕組みを整えていった様子を、前の時 代からの変化や外国との関係から考えること ができる。	・開国による人々のくらしの変化、江戸幕府が倒れた理由や新しい日本の国づくりに尽くした人物の思いや願いについて考えている。
観察・資料活 用の技能・表 現	年表や地図などの資料を活用して、開国に力を尽くした人物の業績について調べることができる。	・資料を活用して、開国に尽くした人物の業績に ついて調べたり明治時代と江戸時代とのくらし の様子を比較して、何がどのように変化したの かを調べている。
社会的事象 についての 知識・理解	日本の開国までの様子や明治政府が諸改革を 行って、近代的な国家づくりを目指したこと を理解することができる。	・黒船の来航をきっかけとして、日本が開国した ことや明治政府が進めた諸改革の内容とそのね らいや影響を、改革に尽くした人物の業績とあ わせて理解している。

4 単元の指導・評価計画(10時間扱い)

段	時		主な学習活動	評価規準	評価規準		
		目標	…学習活動	【評価の観点】	具体の評値	価規準	努力を要する
階	間		…主な支援の手立て	(評価方法)		B:おおむね満足	
					ると判断する視点	できると判断する	童への手立て
						視点	
		歴史年表をも					
۲		とにして、新し	について学習課題を作				
5	1	い日本の国づく	ろう。			ち、新しい制度や	
え		りについて興味	・年表から知りたいこと	ようとする意欲	文化について、視	文化について、調	うにする。
る		や関心をもち、	を考え、発表する。	をもとうとして	点をもって調べる	べる意欲をもとう	
		調べてみようと	・発表をもとに話し合い	いる。	意欲をもとうとし	としている。	
		する意欲をもと	学習課題を作る。	【関·意·態】	ている。		
		うとする。	視点を確認してから課	(発表・ノート)			
			題を作らせる。				
		黒船の来航を	ペリーの来航で、日本	黒船の来航を	黒船の来航によ	黒船の来航によ	結ばれた条約
		きっかけにして	はどう変わったのだろ	きっかけにし	って、日本の鎖国	って、日本の鎖国	の内容を板書や
ıŠ١	2	日本の鎖国が終	うか。	て、日本が大き	が終わったこと	が終わったこと	友達の発言をも
		わったことと、	・資料から読み取る。	く変わっていた	と、結ばれた条約	と、結ばれた条約	とにまとめさせ
		外国と条約が結	・開国によって結ばれた	ことを理解して	の内容について、	の内容について理	る。
		ばれたことを理	条約についてまとめる。	いる。	日本と他国との関	解している。	
か		解することがで			係を関連づけて理	-	
		きる。	る。	(発表・ノート)	解している。		
			- 0	(,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
		開国による人	開国によって、人々の	開国による我	開国による人々	開国による人々	武士の力が弱
め		々のくらしの変					
	3	化を読み取り、				読み取り、幕府が	
			・人々のくらしへの影響				· ·
		た理由を考える	を考え、発表し合う。				に考えさせる。
る		ことができる。	・倒幕の理由を考える。			-	
			視点を与えて資料を読				
			み取らせる。	(発表・ノート)			
			-, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
1							

_		1			I	I	I .
		開国のために	世の中を変えようとし			新しい国づくり	
	4	力を尽くした人	た人たちを調べよう。	りのために尽く	のために尽くした	のために尽くした	て提示し、まと
	١.	物について調	・西郷隆盛、大久保利通、	した人物につい	人物について、新	人物ついて調べ、	めさせる。
	5	べ、まとめるこ	木戸孝允などから人物	て調べ、まとめ	しい日本の国づく	まとめている。	
		とができる。	を選びその業績を調べ		りへの願いをまと		
		5 12 50	る。	【技能·表現】			
			・調べたことを発表し、	(観察・ノート)			
				(観宗・ノード)			
			それぞれの新しい国づ				
			くりへの思いを深める。				
			視点を与えて調べさせ				
			る。				
		明治政府の行	新しい政府は、どのよ	新政府の進め	新政府の進めた	新政府の進めた	廃藩置県、市
		った改革の内容	うな国づくりを目指し	た諸改革の目的	改革ついて調べ、	諸改革の目的と内	民平等、兵役の
		を調べ、政府が	たのだろう。	と内容について	江戸時代とどう変	容について調べ、	義務に焦点化し、
		どのような国づ	・新しい制度について調	調べ、政府がど	わったかという視	政府の国づくりの	その内容を板書
		くりを目指した	べる。			特色を理解してい	
	6		・調べたことをもとにま				もとに理解させ
ıšı	0	をとらえること	とめる。	かを理解してい		ి .	
121					U CNO.		る。
		ができる。	VTR 資料を活用し、理				
			解を深める。	【知識・理解】			
1				(発表・ノート)			
か		明治政府が、					地租改正、徴
1		産業を盛んにし	革を行ったのだろう。	代工業をおこし	た様々な改革を調	た様々な改革を調	兵令、官営工場
		て国を豊かにし	・政府が行った改革を調	たり、軍隊を組	べ、西洋に追いつ	べ、西洋に追いつ	について板書や
	7	ようとしたこ	べる。	織したりしたこ	くために様々な制	くために様々な制	友達の発言をも
め		と、近代的な軍				度を整えていった	
"		隊を組織しよう	#3 = = = = = = = = = = = = = = = = =	る。		ことを理解してい	
		としたことを理	資料を読み取る視点を			る。	
		解することがで	与える。	(発表・ノート)		ి .	
る			山たる。	(光秋・ノード)			
٦		きる	四次はかにも マー		BD34.84 (1) (4)	PENA PT (N I - T)	+ \+ o + < > \\ \
		資料から、多	明治時代になって、人				
		資料から、多 くの西洋文化が	々のくらしはどのよう	様々な文化や制度	て、日本が西洋の	て、日本が西洋の	書にあるキーワー
		資料から、多 くの西洋文化が 取り入れられた	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。	様々な文化や制度 を取り入れた理由	て、日本が西洋の	て、日本が西洋の	書にあるキーワー
	8	資料から、多 くの西洋文化が 取り入れられた ことを理解し、	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている	て、日本が西洋の 様々な文化や制度	て、日本が西洋の	書にあるキーワー ドにしてノートに
	8	資料から、多 くの西洋文化が 取り入れられた	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている	て、日本が西洋の 様々な文化や制度	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由	書にあるキーワー ドにしてノートに
8		資料から、多 くの西洋文化が 取り入れられた ことを理解し、	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている 【思考・判断】	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている。	書にあるキーワー ドにしてノートに まとめるように支
3	本	資料から、多 くの西洋文化が 取り入れられた ことを理解し、 日本が、西洋の 文化を取り入れ	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様 子について比べながら 読み取る。	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている 【思考・判断】 (発表・ノート)	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を外国との関係と	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている。	書にあるキーワー ドにしてノートに まとめるように支
	本	資料から、多 くの西洋文化が 取り入れられた ことが、西洋の 文化を取り入れ ようとした理由	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様 子について比べながら 読み取る。 ・発表をもとにまとめる。	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている 【思考・判断】 (発表・ノート)	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を外国との関係と 関連づけて考えて	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている。	書にあるキーワー ドにしてノートに まとめるように支
	本	資料が 取り入れた ことを理 の大れた ことが の 文化をとが ない よう とを が 取り とを が 取り とを が 取り とを が 取り と を な が 取り と を が の れ り と を が り り り り り り り り り り り り り り と り と り と	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様 子について比べながら 読み取る。 ・発表をもとにまとめる。 「なぜ文化を取り入れた	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている 【思考・判断】 (発表・ノート)	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を外国との関係と 関連づけて考えて	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている。	書にあるキーワー ドにしてノートに まとめるように支
	本	資料から、多 くの西洋文化が 取り入れられた ことが、西洋の 文化を取り入れ ようとした理由	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様 子について比べながら 読み取る。 ・発表をもとにまとめる。 「なぜ文化を取り入れた のか。」という第2課題を	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている 【思考・判断】 (発表・ノート)	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を外国との関係と 関連づけて考えて	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている。	書にあるキーワー ドにしてノートに まとめるように支
	本	資料西の大田では、 のの大田では、 のの大田では、 のの大田では、 ので	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様 子について比べながら 読み取る。 ・発表をもとにまとめる。 「なぜ文化を取り入れた のか。」という第2課題を 与える。	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている 【思考・判断】 (発表・ノート)	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を外国との関係と 関連づけて考えて いる。	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている。	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。
3	本	資料西入ででは、 野西入をがをとれた、 の文と本化とえる。 本代とこる。 本代ととえる。 本代ととれる。 本代とり、 の文はのできる。 本代としる。 本代としる。 本代としる。 本代としる。	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様 子について比べながら 読み取る。 ・発表をもとにまとめる。 「なぜ文化を取り入れた のか。」という第2課題を 与える。 人々は、政府にどのよ	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている 【思考・判断】 (発表・ノート)	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を外国との関係と 関連づけて考えて いる。 自由民権運動が	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている。 自由民権運動が	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書や友達の
3	本	資の取こ日文とが い学のは が洋れ理に取しる。 本化う考さ 西民権 西民権 動の ののの ののの ののの ののの ののの のののの のののの ののののの のののののの	々のくらしはどのよう に変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちがら 子について比べながら 読み取る。 ・発表をもとにまとめる。 「なぜ文化を取り入ま題を りか。」という第2課題を 与える。 人々は、政府にどのよ うな政治をしてほしい	様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている 【思考・判断】 (発表・ノート) 自由民権 動が高まった理	て、日本が西洋の 様々な文化や理像 を取り入れた理由 を外国との関係と 関連づけて考えている。 自由民権運動が 高まった理由を理	て、日本が西洋の 様々な文化や制度 を取り入れた理由 を考えている。 自由民権運動が 高まった理由を理	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書や友達の発表をキーワー
	本時	変が取こ日文よるででででです。 資のりと本化う考さででででです。 ながをとえるでででででできるででです。 のは、ののれまでででできます。 のは、ののれまででできます。 のは、ののれまででできます。 のは、ののは、ののは、ののは、ののは、ののは、ののは、ののは、ののは、ののは、	々のくらしはどのうか。 ・江戸といっている。・江戸に明治にでいる。 ・発表をもとにまとめる。 ・発表をぜ文化を取り入り題をがる。 ・なが。」という第2課題を りたる。 人な政ったのだろう。	様々な文化や制度 を取り入れた理 を考えている 【思考・判断】 (発表・ノート) 自高高 民っし、 車を理解し、国	て、日本が西洋の 様々な文化や理の を取り入れた理由を外国づけて がる。 自由に展揮運動を 解し、国民の政治	て、日本が西洋の 様々な文化や理由 を取り入れた理由 を考えている。 自由民権運動が 高まった国民の政治	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書やするで を を を を で で の の そ で り で り で り で り で り で り で り で り で り で
	本時	資の即こ日文よをで 料西入をがをとえる 南権に人 のりと本化う考き 西民り、 のは、のれ由が も高調し	々のくらしはどのうか。 ・江戸のまちのまちがらいている。 ・江戸でいる。 ・発表をもとにまとめる。 ・発表をせ文化の第2課題を ちない。」はいう第2課題を ちないか。」はいう第2は は、からもしている。 は、からいではいる。 は、からいではいる。 とのではいる。 は、からいではいる。 とのではいる。 は、いるのでははいる。 は、いるのではいる。 は、いるのではいる。 は、いるのではいる。 できる。	様々な文化や現立 を取り入れた理 を考えている 【思表・判断】 (発表・ノート) 自高ア 田まの 日まか 田まの した、対 に対 に対 に対	て、日本が西洋の 様々な文化や理 を取り入れた理と を外国づけて考えている。 自由に大国民 解し、国民の 解した国民の に対する願いと国	て、日本が西洋の 様々な文化や理 を取り入れた理 を考えている。 自由民権運動を に対する願いを考	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書やするで を を を を で で の の そ で り で り で り で り で り で り で り で り で り で
	本時	変が取こ日文よをで 関いと本化う考き 西民り、政 が洋れ理、取しる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	々のくらしはどのうか。 ・江戸のはどのうの様子にのますながらいたのまながらいている。 ・発表をもとにまとめる。 ・発表をせ文化いう第2課題のか。」とのか。」とないう第2課題のしたのがられたのがのというないがある。 人うな願いでしている。 ・西のもいる。	様々な文化やたまで、 を取り入ている 思発表・リート・リート・リート・リート・リート・リート・リート・リート・リート・リート	て、日本ない 様々なり入れた関連を を取り入れた関連が を外連づけいる。 自まし、する原 に対す設に が理とので考え が高いとした が理を が理を に対するに に対した に 会開とした に 会関に に と の と の と の と の と の と の に の に の に の	て、日本が西洋の 様々な文化や理 を取り入れた理 を考えている。 自由た国民権運由の に対する願いを考 えている。	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書・キーワードで表をして考えさ
	本時	資の即こ日文よをで 料西入をがをとえる 南権に人 のりと本化う考き 西民り、 のは、のれ由が も高調し	々のくらしはどのうか。 ・江戸と明治のまちがら ・江戸と明治では、 ・江戸でいる。 ・発表をもとにまとめる。 ・発表をせ文という第2課を 与える。 人うな政ったのしてう。 ・西南戦争について。 ・西。	様々な文化やたまで、 を取り入ている 思発表・リート・リート・リート・リート・リート・リート・リート・リート・リート・リート	て、日本が西洋の 様々な文化や理 を取り入れた理と を外国づけて考えている。 自由に大国民 解し、国民の 解した国民の に対する願いと国	て、日本が西洋の 様々な文化や理 を取り入れた理 を考えている。 自由た国民権運由の に対する願いを考 えている。	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書・キーワードで表をして考えさ
	本時	変が取こ日文よをで 関いと本化う考き 西民り、政 が洋れ理、取しる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	々のくらしはどのうか。 ・江戸のはどのうの様子にのますながらいたのまながらいている。 ・発表をもとにまとめる。 ・発表をせ文化いう第2課題のか。」とのか。」とないう第2課題のしたのがられたのがのというないがある。 人うな願いでしている。 ・西のもいる。	様々な文化やた理を取り入れたる 思発表・リート) 自高理政的 自高解治をのして は大いのでは、対して は大いのでは、対して は、対えでは、対えでは、対えでは、対えでは、対えでは、対えでは、対えでは、対えで	て、日本ない 様々なり入れた関連を を取り入れた関連が を外連づけいる。 自まし、する原 に対す設に が理とので考え が高いとした が理を が理を に対するに に対した に 会開とした に 会関に に と の と の と の と の と の と の に の に の に の	て、日本が西洋の 様々な文化や理 を取り入れた理 を考えている。 自由民権運動を 自由た理由の が高まし、対する。 が高いを考えている。	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書やするで を を を を で で の の そ で り で り で り で り で り で り で り で り で り で
	本時	を取こ日文よをで 関のりと本化う考き 西民り、政っ が洋れ理、取しる。 戦運つ々にい を対をとえる 南権に人治て 争動いが対た やのて新し願 多がた、のれ由が 自高調してい	々のくらしはどのうか。 ・江戸にいいまながらいまながらいた治のまながらいまながらいまながらいまながらいまながらいか。 ・発表が表がまという第2課ができる。 ・のか。」とはいう第2は政ったのがらりない。 ・対したのがのしているがというのしている。 ・とのはいかでははいいでははいいでははいいです。 ・西南戦争にいいでする。 ・自民権運動へ対する	様々な文化やた理を取り入れたる 思発表・リート) 自高理政的 自高解治をのして は大いのでは、対して は大いのでは、対して は、対えでは、対えでは、対えでは、対えでは、対えでは、対えでは、対えでは、対えで	て、ななりとのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、	て、日本が西洋の 様々な文化た理 を取り入れた理 を考えている。 自由民権運動を 自由た理由の が高まし、対する。 が高いを考えている。	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書・キーワードで表をして考えさ
	本時	く取こ日文よをで 由まべいもに 資のりと本化う考き 西民り、政っつ か洋れ理、取しる。 戦運つ々にいて ・	マのくらしはどろうない。 ・江子にいる。 ・江子に取る。というのは、 ・近のののができる。 ・でのででででででででででででででででででででででででででででででででででで	様々なりえまき。 (マなりえまき・ (マなりえまき・ 自がをの願る思表・ 自高理政い。 民っしに考いしに考いして をも、対えが、 の願る思表・ をも、対えが、 の関るに表が、 の関るに表が、 の関るに表が、 の関るに表が、 の関るに表が、 の関るに、対えが、 の関るに、対えが、 の関るに、対えが、 の関るに、対えが、 のに、対えが、)。	て、ななりとのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、	て、日本が西洋の 様々な文化た理 を取り入れた理 を考えている。 自由民権運動を 自由た理由の が高まし、対する。 が高いを考えている。	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書・キーワードで表をして考えさ
	本時	く取こ日文よをで 由まべいもに 資のりと本化う考き 西民り、政っつ か洋れ理、取しる。 戦運つ々にいて ・	マのに江子にいる。 いた治しにいいる。 いた治では、 いた治では、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが、 いたが	様々なりえまき。 (マなりえまき・ (マなりえまき・ 自がをの願る思表・ 自高理政い。 民っしに考いしに考いして をも、対えが、 の願る思表・ をも、対えが、 の関るに表が、 の関るに表が、 の関るに表が、 の関るに表が、 の関るに表が、 の関るに、対えが、 の関るに、対えが、 の関るに、対えが、 の関るに、対えが、 のに、対えが、)。	て、ななりとのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、	て、日本が西洋の 様々な文化た理 を取り入れた理 を考えている。 自由民権運動を 自由た理由の が高まし、対する。 が高いを考えている。	書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。 板書・キーワードで表をして考えさ
	本時	を取こ日文よをで 由まべいもにこ 資のりと本化う考き 西民り、政っつと 外西入をがをとえる 南権に人治ていが の立と本化う考き 西尾り、政っつと が洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 争動いが対た考き ので新し願える。	々のではいい。 ・江子にいる。 ・江子にいる。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でのではいい。 ・でではいい。 ・でででいる。 ・ででいる。 ・ででいる。 ・ででいる。 ・でででいる。 ・ででいる。 ・ででいる。 ・ででででいる。 ・ででででいる。 ・でででいる。 ・でででいる。 ・でででいる。 ・ででででいる。 ・ででででいる。 ・ででででいる。 ・でででいる。 ・でででいる。 ・でででいる。 ・でででいる。 ・ででででいる。 ・ででででいる。 ・ででででいる。 ・ででででででででいる。 ・ででででででいる。 ・でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	様々取りえき。 (本取りえき。 (本取りえき。 (本取りえき。 (本のります。 (、対えを、) (、対なを、) (、対な	て、ななりと 関い 高解に会 が理 を関いる。 は、 はなり はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます	て、日本が代やでは、 を考えている。 自まし、は、 自まし、するのでは、 が理と、 に対する。	書にあるキーワードにしてナートにまとめる。 板表にしてある。 を表しているように支 を表している。 を表している。 を表している。 を見いている。
	本時	(な取こ日文よをでありと本化う考さのりと本化う考さのでは、 か洋れ理、取しる。 がすれ理、取しる。 がすれてでありたこのでである。 ががたれし洋入理とのでは、 ががた、のれ由がので新し願えるのである。 を のので新し願える。 を のので新し願える。 を 等 を ののである。 を を ののである。 を を ののである。 を を ののである。 を を ののである。 を を ののである。 を を ののである。 を を ののである。 を ののである。 を ののである。 を ののである。 を ののである。 を ののである。 を ののである。 を ののである。 を ののである。 と ののである。 ののである。 と ののである。 と ののである。 ののである。 と ののである。 ののである。 と ののである。 <td>々のくいたいでは、 すのでというのがある。 ・江子に取るもとにいうできるというできる。 ・でのがある。 ・でのがある。 ・でのがある。 ・でのがある。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのがのかがある。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのもれいででいる。 ・でのし。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのしる。 ・でのし。</td> <td>様々なり入てい料とは、</td> <td>て、日本なりとのでは、 はなり入れた関連のでは、 を取り国づけいる。 自まし対対関のでは、 自まし対対関のでは、 を運由のに国るに思考は、 を運由のには、 が理治国をした連いる。 大日本本のでは、 が理治国をは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のには、 ・ 大日本のには、 大日本のには、 大日本のには、 大日本のには、 大日本のには、 大日を 大日本のには、 大日</td> <td>て、日本が代やでは、 を取り入れた理を表えている。 自由を考えている。 自由を理理のでは、 自まし、する。 大日本帝国憲法</td> <td>書にあるキーワードにしてナートにまとめる。 板表にしてある。 を表して、まさせる。 を表して、まさせる。 を表して、まさせる。 を表したませる。 大日本帝国憲</td>	々のくいたいでは、 すのでというのがある。 ・江子に取るもとにいうできるというできる。 ・でのがある。 ・でのがある。 ・でのがある。 ・でのがある。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのがのかがある。 ・でのからる。 ・でのからる。 ・でのもれいででいる。 ・でのし。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのしる。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのし。 ・でのしる。 ・でのし。	様々なり入てい料とは、	て、日本なりとのでは、 はなり入れた関連のでは、 を取り国づけいる。 自まし対対関のでは、 自まし対対関のでは、 を運由のに国るに思考は、 を運由のには、 が理治国をした連いる。 大日本本のでは、 が理治国をは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のでは、 大日本のには、 ・ 大日本のには、 大日本のには、 大日本のには、 大日本のには、 大日本のには、 大日を 大日本のには、 大日	て、日本が代やでは、 を取り入れた理を表えている。 自由を考えている。 自由を理理のでは、 自まし、する。 大日本帝国憲法	書にあるキーワードにしてナートにまとめる。 板表にしてある。 を表して、まさせる。 を表して、まさせる。 を表して、まさせる。 を表したませる。 大日本帝国憲
	本時 9	く取こ日文よをで 由まべいもにこ 法資のりと本化う考き 西民り、政っつと 大に料西入をがをとえる 南権に人治ていが 日つか洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 本りら文ら解西りたこ 争動いが対た考き 帝いくれし洋入理と やのて新し願える 国て多がた、のれ由が 自高調している。 憲調	マに江子読発・での与人のと西。自人えで展出している。・ は政の戦 2 にてういいであるちない。 は政の戦 2 にをういがある。と といいののに 選にているは政の戦 2 にてらい ないののが めれ題 にてらい へつ 関に 活のに 動に 活のの 資めのに 動に 活のに 動に 活のの 資めので 選が としていい へつ はい ない はい べる きんれい ない ない はい ない ない ない はい ない ない はい ない ない ない はい ない	様をを なりえ考 は なりえ考表。 自がをの願る 思表 自高理政い。 ま・ 日調 は は い に れ い り え 考・・ 日 調 を の 順 る 思表 日 高 理 政 い る き ・ り し に き き 、 り し に き 、 り し に き 、 き 、 り し に き 、 り し に き 、 り し に き 、 り し に き 、 り し に き 、 り し に き 、 り と う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う	て様を関い 高解に会人づる 大定 制を取り重づ。	て、日本ないの度を考えている。 日本文化れたる。 自まし対ている。 自まし対すいる。 自まし対すいる。 本での過を考えている。 本での過を表する。 大定までの過程を表する。 大定までの過程を表する。 大定までの過程を表する。 大きまでの過程を表する。 大きまでの過程を表する。 大きまでの過程を表する。 大きまでの過程を表する。 大きまでの過程を表する。 大きまでの過程を表する。 大きまでの過程を表する。 大きまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを	書にあるナートにませる。 おししてようにもある。 を表ししている。 を表している。 を表している。 をもしている。 をもしている。 をもしている。 をもしている。 をもしている。 をもしている。 をもれ
	本時 9	く取こ日文よをで 由まべいもにこ 法べ資のりと本化う考き 西民り、政っつと 大に、料西入をがをとえる 南権に人治ていが 日つ明か洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 本り治ら文ら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政、化れし洋入理と やのて新し願える 国て府多がた、のれ由が 自高調している。 憲調が	マに江子読発でいる。 く化とつ取をぜ」。 した治て、というのがまない。 ととないののにである。とないののでででででででででででででででででででででできます。 した治でででできまれた。 のででできまれた。 でのででできまれた。 でのでできまれた。 でのででできまれた。 でのでできまれた。 でのでできまれた。 でのでできまれた。 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのでできまれて、 でのできまれて、 できなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	様をを なりえ考表 自がをの願る 以入て・・・ 化れたの 出き はなりえ考表 自高理政い。 ま・ 由ま解治を お・・ 本べて をしに考 料」 帝、整 を、対え 断ト 国憲え	て様を関い 高解に会人づる 制調 高解に会人づる 制調 高解に会人である 日まいが開物ける 日ま、す設のて 日ま、 種理民願にとえ 南の国 を政とし関て 憲程家 前を政とし関で 憲程家の度由とて が理治国た連い 法をの	て、マヤンス で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	書にあるキートにまま 接する。 本の発 にまとめる。 本のの一ではました。 本ののでは、 をしたが、 をしたが、 をしたが、 をしたが、 をしたが、 をしたが、 をいる。 をい。 をいる。 をし。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をしる。 をし。 をしる。 をし。 をし。 をし。 をし。 をし。 をし。 をし。 をし
	本時 9	く取こ日文よをで 由まべいもにこ 法べ目資のりと本化う考き 西民り、政っつと 大に、指料西入をがをとえる 南権に人治ていが 日つ明しか洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 本り治たら文ら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政政らなら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政政をがた、のれ由が 自高調している。 憲調がを	マに江子読発でいる。 らし明いるも文と した治て、という。は政っ戦 民の。資を日く法でいる。 ととない。 の変戸にみ表なか。る。は政っ戦 民の。資め帝した治で、にをううのに 運い へつ 用 にるいののに 運い といって 対い し にうまべの 動に 活 といる といる がいる といる は政っ がいる といる は政っ がいる といる は政っ がいる といる は政っが、 この。 にている。 といる といる といる はいる といる はいる といる はいる といる はいる といる はいる といる といる といる といる といる といる といる といる といる と	様をを なりえ考表 自がをの願る 思発 自がをの願る 思表 日調っ近 に大 に大 に大 に大 に大 に大 に大 に大 に大 に大	て様をを関い 高解に会人づる 制調かて 大定べた 日なり国づ。 自まし対開物け。 日ま、ちが化れた関考 国のに思考 本で近がを 地球の 本で近が を 単田のいくとえ 国過程家の 大定べた を 単田のいくとえ 国の代整 正のとし関て 憲程家らの度由とて が理治国た連い 法をのれ	て、マヤンスで、大定で、大定で、大定で、大変取えて、なり入ていいでは、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変	書にまままである。 またしとめる。 書をしとめる。 本定容の本のに表する。 本定容の本のので発ってあるで、またで、またで、またで、またで、またで、またで、またで、またで、またで、また
	本時 9	く取こ日文よをで 由まべいもにこ 法べ目理 資のりと本化う考き 西民り、政っつと 大に、指解 料西入をがをとえる 南権に人治ていが 日つ明しす か洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 本つ治たる ら文ら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政政こ 、化れし洋入理と やのて新し願える 国て府治と 多がた、のれ由が 自高調している。 憲調がをが	マに江子読発「の与人うと西る自人えど解大て憲調憲の変戸にみ表なからえな願南。由々るR深本わ制るの変戸にみ表なから、は政っ戦 民の。資深本わ制るのよだまべき、と、治た争 権願 料る国に 法ののに より2 だほうて 対い し によ過 でんか。様ら る。たを よい べる考 理 いを まうか。様ら る。たを よい べる考 理 いを まうか。 様ら る。たを よい べる考 理 いを ま	様をを く取考思発 自がをの願る にれい なりえ考表 自高理政い。 田高理政い。 まを とたよたた といれる 断一 民っしに考 判一 帝、整国理 を国理 を表表を を表えたた を表えたた を表えて代を を表えて代を を表えての を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を表えて を、対え 断一 国憲え家解 をまる。 のした を表えて を、対え、 断一 国憲える。 のした を、対え、 が一 を、対え、 が一 を、対え、 が一 を、対え、 が一 を、を、対え、 が一 を、を、対え、 が一 を、を、対え、 が一 を、を、対え、 が一 を、を、対え、 が一 を、を、対え、 が一 を、を、対え、 が一 を、対え、 が一 を、を、対え、 が一 を、対え、 が一 を、対え、 が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、が一 を、を、を、が一 を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、	て様をを関い 高解に会人づる 制調かた、々取外連る 自まし対開物け。 大定べたこ日なり国づ。 由っ、す設のて 日ま、ちとが化れ関考 運由のに思考 帝の代整方でのでは、ないとは、 電過の国人では、 動を政とし関て 憲程家ら的の度由とて が理治国た連い 法をのれに	で、マ取考 日なりえて 田なりえて 一は 一は 一は 一は で、マ取考 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は	書にまま 接
	本時 9	く取こ日文よをで 由まべいもにこ 法べ目資のりと本化う考き 西民り、政っつと 大に、指料西入をがをとえる 南権に人治ていが 日つ明しか洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 本り治たら文ら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政政らなら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政政をがた、のれ由が 自高調している。 憲調がを	マに江子読発「の与人うと西る自人えど解大て憲調憲との変戸にみ表なかえなな願南。由々るR深本わ制るのの変戸にみ表なかえなな願南。由々るR深本わ制るのるらし明いるも文と、、治た争 権願 料る国(法べののろちな め入課 どほうて 対い し によ過いなうのが めれ題 のし 調 すて 、 つう程 てよう。様ら 。たを よい べ る考 理 い を まう。 う。様ら る。たを よい べ る考 理 い を ま	様をを【(動由民るい【(法にれかて 々取考思発 自がをの願る思発 日調っ近ちる 文入て・・・ 由高理政い。 考・ 日調っ近ちる 化れい判丿 民っしに考 判丿 帝、整国理 制理 】) 運理国すて 】) 憲法らのし	て様をを関い 高解に会人づる 制調かて 大定べた 日なり国づ。 自まし対開物け。 日ま、ちが化れた関考 国のに思考 本で近がを 地球の 本で近が を 単田のいくとえ 国過程家の 大定べた を 単田のいくとえ 国の代整 正のとし関て 憲程家らの度由とて が理治国た連い 法をのれ	て、マヤンスで、大定で、大定で、大定で、大変取えて、なり入ていいでは、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変	書にまま 接
	本時 9	く取こ日文よをで 由まべいもにこ 法べ目理 資のりと本化う考き 西民り、政っつと 大に、指解 料西入をがをとえる 南権に人治ていが 日つ明しす か洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 本つ治たる ら文ら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政政こ 、化れし洋入理と やのて新し願える 国て府治と 多がた、のれ由が 自高調している。 憲調がをが	マに江子読発「の与人うと西る自人えど解大て憲調憲の変戸にみ表なからえな願南。由々るR深本わ制るの変戸にみ表なから、は政っ戦 民の。資深本わ制るのよだまべき、と、治た争 権願 料る国に 法ののに より2 だほうて 対い し によ過 でんか。様ら る。たを よい べる考 理 いを まうか。様ら る。たを よい べる考 理 いを まうか。 様ら る。たを よい べる考 理 いを ま	様をを【(動由民るい【(法にれかて 々取考思発 自がをの願る思発 日調っ近ちる 文入て・・・ 由高理政い。 考・ 日調っ近ちる 化れい判丿 民っしに考 判丿 帝、整国理 制理 】) 運理国すて 】) 憲法らのし	て様をを関い 高解に会人づる 制調かた、々取外連る 自まし対開物け。 大定べたこ日なり国づ。 由っ、す設のて 日ま、ちとが化れ関考 運由のに思考 帝の代整方でのでは、ないとは、 電過の国人では、 動を政とし関て 憲程家ら的の度由とて が理治国た連い 法をのれに	で、マ取考 日なりえて 田なりえて 一は 一は 一は 一は で、マ取考 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は	書にままった。 書ににとする。 書をしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもののででである。 をもののででである。 をもののでである。 をもののでである。 をもののでである。 をものできる。 をものでである。 をものでである。 をものでである。 をものでである。 をものできる。 をものでものできる。 をものできる。 をものできる。 をものでをものできる。 をものでものできる。 をものできる。 をものできる。 をものできる。 をものできる。 をものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをもので
	本時 9	く取こ日文よをで 由まべいもにこ 法べ目理 資のりと本化う考き 西民り、政っつと 大に、指解 料西入をがをとえる 南権に人治ていが 日つ明しす か洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 本つ治たる ら文ら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政政こ 、化れし洋入理と やのて新し願える 国て府治と 多がた、のれ由が 自高調している。 憲調がをが	マに江子読発「の与人うと西る自人えど解大て憲調憲との変戸にみ表なかえなな願南。由々るR深本わ制るのの変戸にみ表なかえなな願南。由々るR深本わ制るのるらし明いるも文と、、治た争 権願 料る国(法べののろちな め入課 どほうて 対い し によ過いなうのが めれ題 のし 調 すて 、 つう程 てよう。様ら 。たを よい べ る考 理 い を まう。 う。様ら る。たを よい べ る考 理 い を ま	様をを【(動由民るい【(法にれかて 々取考思発 自がをの願る思発 日調っ近ちる 文入て・・・ 由高理政い。 考・ 日調っ近ちる 化れい判丿 民っしに考 判丿 帝、整国理 制理 】) 運理国すて 】) 憲法らのし	て様をを関い 高解に会人づる 制調かた理 日なり国づ。 自まし対開物け。 大定べたこ解 かんとけ 民た国るに思考 帝の代整多い 種理のいくとえ 国過国をいえ 国過程家ら的。 が理治国た連い 法をのれに 法をのれに	で、マ取考 日なりえて 田なりえて 一は 一は 一は 一は で、マ取考 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は	書にままった。 書ににとする。 書をしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもののででである。 をもののででである。 をもののでである。 をもののでである。 をもののでである。 をものできる。 をものでである。 をものでである。 をものでである。 をものでである。 をものできる。 をものでものできる。 をものできる。 をものできる。 をものでをものできる。 をものでものできる。 をものできる。 をものできる。 をものできる。 をものできる。 をものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをもので
	本時 9	く取こ日文よをで 由まべいもにこ 法べ目理 資のりと本化う考き 西民り、政っつと 大に、指解 料西入をがをとえる 南権に人治ていが 日つ明しす か洋れ理、取しる。 戦運つ々にいてで 本つ治たる ら文ら解西りたこ 争動いが対た考き 帝い政政こ 、化れし洋入理と やのて新し願える 国て府治と 多がた、のれ由が 自高調している。 憲調がをが	マに江子読発「の与人うと西る自人えV解大て憲調憲と伊らし明いるも文と、治な願南。由々るTRを日く法べ法め藤らし明いるも文と、治なのに 運い たっと は政っ戦 にてろい へつ 開きる国調で にてろい へつ 動に 活。憲調で にずからのが めれ題 のし。調 すて 、 つう程 て らいからがらのが あれり とはい なる考 理 いをまい 2 とほうて 対い し にう過 いか からののが あれり とほうて 対い し にう過 いか からのが あれり とばらって 対い し にう過 いかまからが あれり がって 対い し にう過 いかまがら る。たを よい べる考 理 いをま 深	様をを く取考思発 自がをの願る 思表 自がをの願る 思表 日調っ近ちる識 でいたがリノ 民っしに考 料」 一 本べて代を。 理 を のに考 り 本がで代を。 理 を のに考 が を のに のに を のに のに のに のに のに のに のに のに のに のに	て様をを関い 高解に会人づる 制調かた理 日なり国づ。 自まし対開物け。 大定べたこ解 かんとけ 民た国るに思考 帝の代整多い 種理のいくとえ 国過国をいえ 国過程家ら的。 が理治国た連い 法をのれに 法をのれに	で、マ取考 日なりえて 田なりえて 一は 一は 一は 一は で、マ取考 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は 一は	書にままった。 書ににとする。 書をしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもしと をもののででである。 をもののででである。 をもののでである。 をもののでである。 をもののでである。 をものできる。 をものでである。 をものでである。 をものでである。 をものでである。 をものできる。 をものでものできる。 をものできる。 をものできる。 をものでをものできる。 をものでものできる。 をものできる。 をものできる。 をものできる。 をものできる。 をものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをものでをもので

5 本時の指導(8/10)【モデル学習】

(1) 目標

資料から、多くの西洋文化が取り入れられたことを理解し、日本が、西洋の文化を取り入れようとした理由を考えることができる。

(2) 本時の指導にあたって

資料もとにして、日本に多くの西洋の文明が入ってきたことや新しい制度が整えられたことを理解させる。また、日本が西欧化した理由を考えさせ、話し合わせることを通して日本にとって、文明開化がどのような目的があったのかについて考えを深めるさせることをねらいとする。具体的な支援の手立ては次の3点である。

- ・最初に、明治初めごろの東京を描いた絵資料から、西洋文明はどれかという視点で読み取り、発表させる。また、既に学習した開国直後の江戸のまちの様子を描いた絵資料と比較させ、違いをとらえさせる。
- ・発表をもとに、文明開化によって取り入れられた文化や制度は、今の児童の生活にも欠かせない身近なものであることをとらえさせる。また、資料から、なぜ国は、西洋の文化を取り入れようとしたのかという観点で話し合わせることを通して、アジア地域の中での日本と欧米との関係について考えさせる。
- ・児童の考えが深められた段階で、文明開化が起こった理由について考え、まとめさせる。

(3) 展開

(3)	展開		
段階	学習内容・学習活動	支援の手立てと評価の観点	準備・資料
とらえる	1 学習課題をつかむ。 明治時代になって、人々のくらし はどのように変化したのだろうか。	・江戸時代との雰囲気の違いを 発表させ、課題につなげる。 ・本時の学習の進め方を確認す る。	
3 分			紙板書
ふかめる	 2 資制から読みでに出する。 (1) 読み取る。 (2) 発表らががりの建物・・電馬人がががががががががががががががががががいり・・・を軽料がが発度が発度が発度が発度が発度が発度が発度が発度が発度が発度が発度が発度が発度	・資料では、を の拡資る いくとさ とと とでがいれたを とと とでがいれたを おり で の で の で の で で が が な が で が が が が が が が が が が が が が	
	なぜ、日本は西洋から文化を取り 入れようとしたのだろうか。	・日本が西洋から多くの文化や制度を取り入れた理由について、欧米諸国と日本の文化の発展の比較、アジア諸国における欧米諸国の進出の様子から考えさせる。	拡大資料

	4 課題についてノートにまとめる。	・まとめさせる			
		して、板書を	キーワードと	し 拡大地図	
		て使うようにん	足す。		
	【評価規準Bの例】	【評価規準】(思考	・判断)		
		開国によって、日本に様々な文化や制度が取り入れられた理由を考			
	明治時代になって、イギリスなど	えることができる。(ノート)			
	外国の文化が進んでいることを知り、	具体の評価規準 努力を要すると判断さ			
	外国に負けたくないという気持ちで	A	В	れた児童への手立て	
	たくさんの文化や制度を取り入れた。	明治時代に	明治時代に	友達の考えや板	
	(アジア諸国の様子を含めていればA)	なって、日本	なって、日本	書にあるキーワー	
		が西洋の様々	が西洋の様々	ドにしてノートに	
		な文化や制度	な文化や制度	まとめるように支	
		を取り入れた	を取り入れた	援する。	
		理由を外国と	理由を考えて		
		の関係と関連	いる。		
		づけて考えて			
3 7		いる。			
分					
	5 本時の学習を振り返る。				
ま	・自己評価	・自己評価は、	2 観点(1 意欲	`	
۲	・学習感想	2 文明開化による人々のくら			
め		しの変化を考	しの変化を考えノートにまと		
る		めることがで	きたか。) 3	段	
		階(A~C)、	で行う。		
		・学習感想の中			
5 分		表の中で見つけ	けたよさを記入		
		するように指	示をし、発表:	を	
		通して相互評値	西とする。		

(4) 板書計画

明治時代になって、人々のくらし はどのように変化したのだろうか。 なぜ、日本は西洋から文化を 取り入れようとしたのだろうか。

レンガづくりの建物小学校電灯(ガス灯)新聞人力車鉄道かさ電話髪型(ざんぎり頭)郵便牛鍋

外国が進んでいる。 取り残されてしまった。 外国に負けたくない。

文明開化